



2010.2.21 十字架の道行の祈り

「悔い改めて福音を信じなさい」

主任司祭 B・ノヴァク

「悔い改めて」という日本語に翻訳されている元々のギリシャ語の単語は「メタノイア」です。それは「目指していた目標をやってきたことについての考え方を変えること」を意味する言葉です。

殆どの場合、人間が悪を行うのは、悪を求めるためではなく、善を求めても、善とは何であるかということが分からなためです。聖書はそのような人を暗闇に生きる人に例えています。または、多くの人がそのような暗闇に留まり、悪を行いつづけるのは、自分の行いのために恥ずかしくなったり、裁きを受けることを恐れたりするためであるようです。

悔い改めてるように、つまりそのような間違った考え方を正すように呼びかけたイエスは、先ず、わたしたちに、真の善とは何であるかということを示してください。それから、この善を求めておられる神がわたしたちを裁くというのは、わたしたちを罪に定めるといってではなく、罪の奴隷であるわたしたちを解放し、御自分の愛の交わりに受け入れるのであるということをお教えています。

わたしたちは、イエスの教えを信じ、罪から離れ、いっくしみ深い父である神と親しい交わりのうちに生きながら、真の善を行うことができますように祈りましょう。

平日のミサ時刻：

月曜日・水曜日・木曜日・土曜日 午前7時
第3土曜日 午前10時30分 子供のミサ(マリア館)
火曜日 午後7時
金曜日 午前10時 初金曜日 午後7時
聖体礼拝： 土曜日 午後5時30分

主日のミサ時刻：

土曜日 午後2時30分
日曜日 午前8時・9時30分・午後6時
Sunday:
9:30 am Mass in English (Maria Kan-Hall)
第4日曜日 午後2時 ベトナム語のミサ

堅信を受けて

イグナチオ 福井 三郎

ぼくは、二月七日に野村司教様から堅信の秘跡を受けて、神さまを身近に感じました。

ぼくは兄弟で堅信の秘跡を受けるのは四番目で、兄が堅信の秘跡を受けているのを見てもよく分かりませんでした。自分が受けたら一気に、神さまに対する信仰が厚くなったと思います。ふしぎな気持ちになりました。

これからもできるだけミサに参加します。

堅信を受けて

ローマのフランシスカ
細野 陽子

堅信式の朝は、緊張と、身のひきしまる思いで、聖堂に入りました。司教様の祝福を頂戴した時は、無我夢中で、リハーサルで教えて頂いたとおり、出来たか、今も分からないくらいですが、とても、清々しい気持ちにさせて頂きました。

昨年の復活祭で、洗礼を受けて頂き教会のお仲間に入らせて



2010. 2. 21 お茶会

頂きました。何よりも、皆様と同じ様に、通路に並び、ご聖体を初めて拝領した時の感激は、今でも忘れません。
できる限り、ごミサに毎週参加させて頂き、更に信仰を深めたいと思っております。
洗礼、及び、堅信にあたり、ご指導下さいましたブレシ神父様、シューベルト神父様、又、堅信にまで、導いてくださいましたボクダン神父様始め、南山教会の皆様、快く、代母を引き受けてくださいました加藤の皆さんに感謝しております。
まだまだ、未熟ですので、今後とも宜しくご指導の程、お願い致します。

ボーイ雪山を駆け巡る

伊藤 宗太郎

去る2月26日から28日にかけてボーイ97団は二泊三日スキー訓練にでかけた。総勢35名がバスに乗って岐阜県木の平スキー場に向った。南山教会中庭から出発する際、雨がシヨボシヨボ降っていて、最悪の天候だった。

だが、一夜明けると雨もあがり、雲ついていたが絶好のスキー日和だ。子どもたちはスキー装備をつけるのにもどかしく、ワアーと歓声をあげて雪の中に突っ込んでいった。

リーダーのスキー技術指導のおかげで見える見るうちに上達し、初歩の子ども格好よく滑れるようになった。最終日はリフトで頂上に登って、大丈夫かなと心配したが、コロコロ転びながらも滑走して下りてきた。

例年にないほどの温暖な気候だったためか、子どもたちは大喜びで、元氣よく教会中庭へ帰って来た。

上手に滑れてヨカッタ！
なだれにもあわずヨカッタ！
みんなヨカッタ！

第十回運営委員会議事録

日時 2010年2月14日

11時20分～12時30分

場所 司祭館一階集會室

○司祭団より

1. 助任司祭の移動について
当教会のエディ神父様が、押切教会の主任司祭に転任され、新司祭ニコ神父様が、4月から当教会助任司祭として活動して下さる予定。

○報告事項

1. 城北ブロック会議について
1月17日開催された会議内容の報告があった。教区宣教師評議会からは、教区デーについての話があった。今年度までとは違い、教区としての集まりが企画される予定である。

信徒協からのお願いとして、米の一握り運動に持ちよる米は、精米した米でお願いしたいとの話があった。
ハイチの災害の救援基金の呼びかけが配布された。

多機能型支援施設建設の経過について報告があった。
司祭年の取り組みの一つとし

て、6月12日(土)14時30分のミサに城東ブロックの方々が集い、司祭年を総括するミサとしてはどうかとの提案があった。

城東ブロックの集い(9月26日開催)については、膳棚教会より「信徒の霊性」をテーマとして具体的な内容を検討しているとの報告があった。

恵方町教会より以下の行事予定の報告があった。

5月8日AJU設立20周年の記念行事開催

5月30日 わだち祭開催

2011年については、ブロック会議の議長、集いの輪番ともに南山教会の担当になる。

2. 司教様を囲む新年の集い
新年の集いの新成人の参加者は10名。南山教会からは2名が参加した。うち1名は、ミサの中で朗読奉仕を行った。

司教様からは年頭書簡についてのお話があった。お祝いのパーティーの中で、早川師担当の青少年委員会の活動に

ついて話があった。当教会の山田恵美子さんも登場した。

3. 堅信式について

2月7日の堅信式で19名の堅信の秘跡が執り行われた。

その後マリア館ホールで中高生父母の会によるパーティーが行われた。

4. 信徒協より

世界祈祷日 3月5日13時
城北橋教会にて

養成講座 3月6日

講演「信仰生活とエコ生活」
3月27日

審議事項

1. 災害対策金の使途について

これまで毎年のバザー収益から積立ててきた災害対策費の使途として、災害対策緊急備品の購入を決定した。およそ百人分の毛布や非常食、トイレなどの物品。

同等品について合い見積もりを取って検討した結果である。費用は、およそ百万七千円かかる。

今回購入を決めた品目の他に整備する物品については、今後検討する。

備品の保管場所としては、

マリア館倉庫のシャワー室を利用することに決定した。

物品の管理については、当面、バザー実行委員会が担当することとした。

2. 教区年間テーマを受けた小教区の具体的な取組について

5通の応募についてそれぞれ検討した。年間テーマを意識しながら、月1回ミサの間にロザリオの祈りを捧げることを決めた。具体的な実施方法は、典礼委員会にて決定していただく。

外国人信者との交流やお互いの理解を深めることなどについては、具体的な方策について、今後検討していくこととした。

3. 次年度運営委員について

各会でご人選を進め、3月7日運営委員会で集約する。

新しい運営委員の紹介は、4月10日(土)の14時30分ミサと11日(日)8時、9時半、18時のミサの中で行う。

4. 御復活のパーティー
クリスマスパーティーと同じく、有志による運営とすることになった。

○各会報告

1. 典礼委員会
2月7日 堅信式 日英合同

2月17日 灰の水曜日 十字架の道行きの祈りの冊子を新しく作成した。

2月22日 洗礼
志願式 3月13日 四旬節 黙想会、共同回心式

2. ヨセフ会
1月24日 新年会開催23名参加。共に祈る機会となった。

2月21日 班長会議開催

3. 中高校生会

3月20日 春合宿開催
3月21日 終業式
3月21日 申込締切

4. ボーイスカウト
新年度のスカウトバザーは6月13日開催 物品の寄付と食券販売の協力宜しく。

5. 英語ミサ

2月14日 日英合同ミサ開催

6. 要約筆記の会
2月20日 21日 研修センターにて研修。

7. 福信館バザー

4月25日開催

愛と苦しみ (その14)

人間の癒しの源であるキリストの受難と復活

B・ノヴァク神父

3・2・4 イエスの父と神の国

イエスが神の子に相応しい生き方を知っていたのは、神が父であるということがどういうことかを知っていたからです。

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。」(ヨハ15・9)と云うこと

によってイエスは神の愛を自分の体験から知っていたということを示しています。イエスは父である神の愛を知っていたからご自分の弟子たち、またはご自分に対して敵意を持っていた人やご自分を苦しめ、十字架に付けて殺した人を愛することができたのです。その意味では、父である神の愛がイエスご自身の愛の源であったということが言えると思います。イエスは神の愛を体験していたから、イエスにとって神は何よりも「アツバ」、即ち「愛する父」でした。神は創造主として命の源であり、または世界の絶対的な支

配者としていつもご自分が創造されたものを治め、導いてくださるという意味だけで父であるのではありません。神が父であるということとは、神がわたしたちの善だけを求め、いつもそばにいて、いつも支え、守ってくださり、人間に命だけでではなく、ご自分の愛も注いでくださるという意味です。人間は、このような父である神と親しい愛の交わりのうちに生きることができません。しかも、この交わりは永遠に続くものであって、人間と神と完全な一致をもたらすものなのです。イエスは、ご自分の体験に基づいてこのような実感と確信をもつようになり、そしてそれについて語っただけではなく、それをご自分の生き方や神に対する態度によって示してくださっていました。

神のことを「アツバ」と呼ぶことによってイエスは、神に對する最大の愛を示したとともに、小さい子供が自分の親に對して抱いているような、何の疑いもない信頼とその信頼に基づ

く絶対的な従順を示していました。このように神を愛し、神に信頼していたイエスは、ご自分の命を神である父に完全に委ね、神と親しい交わりの内に生きていました。そのため、悪霊の誘惑、親類の誤解や親しい友の裏切りであつても、激しい迫害、死に至る残酷な受難であつても、それらはイエスを父である神から引き離すことができませんでした。イエスの人生は神の愛に對する完全な応えになり、イエスが本当に神の愛する子であるという事実の完全な表現になりました。イエスは人間

の心で愛していました。父である神と深く結ばれたことによって、イエスの人間の心が神の愛によって満たされています。それ故、イエスは愛に生きることによつて、神ご自身の愛を現わしていたわけでは

ありません。神がすべての人々にご自分の愛を与え、この愛によって全

ての人々を結び、神の大きな家族にすることは神の最も大きな望みであつて、神が人類を創造し

てくださった目的であつたとい

うことをイエスが知つた時から、神のこの望みは、イエスの最も熱心な望みとなり、それを

実現することがイエスの使命と

人生の目的となりました。「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」(ルカ12・49)と語つたイエスは、ご自身が神に對する愛によって燃えていたように、すべての人々もこの愛によって燃えるようになることを求めているということ宣言し、人々の心の中に神に對する愛の火を付けることが自分の使命であり、この世に生まれてきた目的であるという確信を示しています。

すべての人々が愛の絆、しかも永遠に解かれることのない絆によって神と互いに結ばれているという現実、イエスにとつて人類のための大きなビジョン(未来像)となりました。イエスが出会つたすべての人々に對して愛を實踐したのは、この人々を少し助け、彼らの苦しみを一時的に和らげるためであつただけではなく、何よりも神の愛を現わし、この愛によって人々を神のもとに引き寄せることによつて、このビジョンを実現するためでした。このビジョンの實現がすべての人々にとつて最高の善、最高の幸福であると知つていたイエスはそのため

に、ご自分が持つていたすべて
のものをかける覚悟やあらゆる
苦痛を受け入れ、ご自分の命さ
えも犠牲にする覚悟を持つてい
ました。イエスはこのビジョン
を「神の国」と名付けました
が、教皇ヨハネ・パウロ二世が
現代人の感覚に合わせてそれを
「愛の文明」と呼んでいまし
た。

イエスは、ナザレでの静かな
生活の中で、何かの奇跡的な出
来事や特殊な修業によってでは
なく、一般的な家庭の生活、毎
日の仕事とユダヤ人としての誠
実な生き方によって、即ち、日
常的で小さなことにおいて神の
み旨を果たすことによって、神
を、愛する父として知りまし
た。おそらく、そのような体験
に基づいて、イエスは「ごく小
さな事に忠実な者は、大きな事
にも忠実である。」(ルカ 16・10)

と教えたでしょう。イエスが普
通の生活の中で神の愛を体験
し、ご自分が神の愛する子であ
るといふ身分を知るようにな
り、この愛の内に成長すること
によって、最後まで愛すること
ができたことを見て、誰でも、
イエスと同じように愛すること
ができるということが分るはず

です。というのは、すべての
人々が神によって愛されている
し、すべての人々がこの愛を体
験し、この愛を受け入れ、この
愛に成長することができるので
す。ところがイエスのように愛
することはすべての人にとって
可能なものであっても、殆どの
人々がその可能性を生かしてい
ないというのは現実です。次の
章にはそんな現状の理由につい
て考えてみたいと思います。

(つづく)

第十一回運営委員会議事録

日時 2010年3月7日
11時20分～12時30分
場所 司祭館一階集会室

○司祭団より

1. 復活祭のミサについて

復活祭の洗礼志願者は15名。

4月4日のミサ後のパー
ティーで異動する助祭の歓送
迎を行う。

典礼委員会にてミサの詳細な
打合せをする

○報告事項

1. 次年度運営委員について
各会の報告を書面で受ける。

4月10日(土)14時半ミサと
11日8時、9時半、18時の
ミサで新委員の紹介をする。

審議事項

1. 次年度運営委員長

本年度運営副委員長の泉さん
に次年度の運営委員長を引き
うけていただいた。

2. 2010年の取組について
月1回教区年間テーマを意識
して、ロザリオの祈りを9時
半ミサに取り入れることにし
ているが、詳細は、3月21日
の典礼委員会で話し合われる
予定。

3. 復活祭パーティーについて
クリスマスパーティーに準じ
て行う。お知らせを通じて有
志を募り、持ち寄りをお願い
する。

パーティーの際に、ちよつと
した気配りができるとよい。
ご高齢の方や車椅子の方が食
事をとりにくい現状がある。
ある程度の分を取り皿にとつ
たら、机を少し離れて、次の
人が取りやすいようするのが
立食パーティーのマナーであ
る。このことについて、司会
者が少し話すようにする。
4. 聖母の子等の会の納骨堂管
理を当教会に委譲について

まだ十分な確認、打合せがで
きてないので、今後、しっか
り打ち合わせをし、来年度、
継続審議とする。

打ち合わせは、今年度に引き
続き松浦が担当する。

教会の敷地内納骨堂を建てて
はどうかという意見もあるの
で、様々な可能性を考えなが
ら、しつかり検討していくべ
きである。

5. その他

(1) 聖歌隊の練習用オルガン
古くなり、故障しているので
新規に購入したい。

4月の運営委員会に見積りを
提出し、審議する。

(2) 防災備品の購入について
マリア館倉庫内の保管スペー
スが十分であると分かった。

先月の運営委員会で承認され
たとおりの防災備品の発注を
行う。

○各会報告

1. 典礼委員会

四旬節の間十字架の道行の祈
りをささげる

3月13～14日四旬節黙想会、
共同回心式

3月28日受難の主日、枝の日
4月1日聖木曜日(晩餐のミサ)

- 2日 聖金曜日(受難の典礼)
- 3日 聖なる復活の徹夜祭
2. ヨセフ会
 - 2月21日 班長会議開催
 - 新役員の選出は、次年度は、2班と4班から選出する。
3. 中高校生会
 - 3月20日～21日 春合宿開催
 - 新1年生の参加可
 - 3月21日 終業式
 - 昼食会のみ参加も募集中
4. ボーイスカウト
 - 運営委員会への委員の選出
 - 4月中 親子ハイキング開催
 - 5月中 潮干狩り開催
 - 新年度のスカウトバザーは、6月13日開催 物品の寄付と食券販売の協力宜しく。
5. 英語ミサ
 - 復活祭9時半のミサは、日英合同ミサとする。
6. 要約筆記の会
 - 2010年度の責任者 選出決定した 2月20日 21日
 - 障害者黙想会開催
7. 手話の会
 - 新年度 役員選出 決定した
8. マリア会
 - 3月5日 初金ミサ後 例会を開催した 次年度の 役員選出 決定した その後世界祈祷日に 多数参加した



2010. 2. 21 洗礼志願式

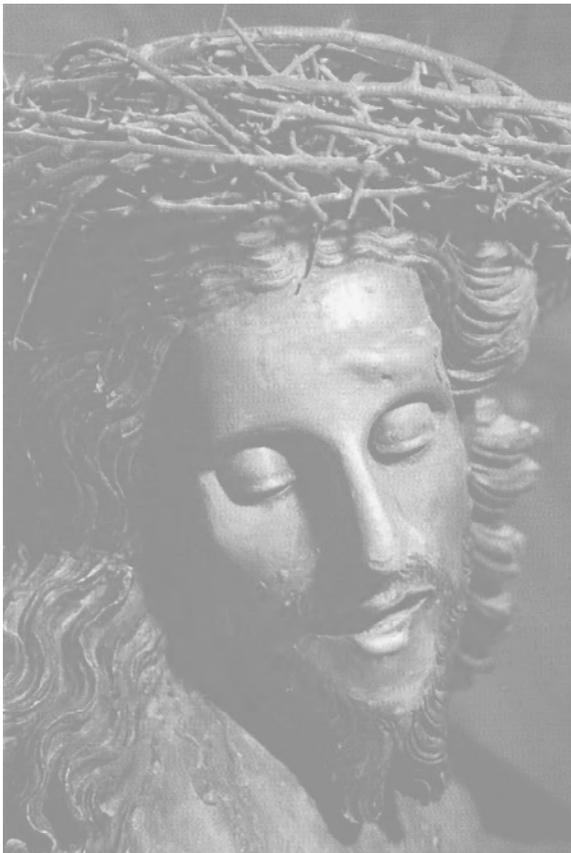
9. 大樹の会
 - 3月21日 9時半ミサ後、マリ
 - ア館和室でお茶会を開催
 10. 信徒協
 - 3月5日 世界祈祷日を 城北橋教会で開催 300人以上
- の参加者のうち
カトリックは
197名参加
アフリカ、コンゴ
出身の神父様の
講話があった。

1536 「叙階は、キリストから使徒たちにゆだねられた使命を世の終わりまで教会において続けさせる秘跡、つまり使徒の奉仕職の秘跡です。これには、司教、司祭、助祭の三つの位階があります。」

カトリック教会のカテキズムより

1545 「キリストのあがないのいけにえは、ただ一度で成就された唯一のものです。しかしそれは、教会のエウカリスチアのいけにえにおいて現在化されています。キリストの唯一の祭司職についても同様のことがいえます。それは職位的祭司たちによって現在化されていますが、そのことによってキリストの唯一の祭司職が損なわれることはありません。「だから、キリストだけが真の祭司であって、他はその奉仕者にすぎないのです。」

1546 「大祭司であり唯一の仲介者であるキリストは、教会を「父である神に仕える祭司の王国」となさいました。信者の全共同体がそれ自体として祭司的団体です。信者は祭司、預言者、王であるキリストの使命にそれぞれの 召し出しに応じて参与し、洗礼による祭司職を果たします。信者は洗礼および堅信の秘跡によって「聖なる祭司職をもつ者となるよう聖別されます。」



四旬節 「音楽による黙想会」

「十字架上のキリストの 最後の七つの言葉」

ヨーゼフ・ハイドン作曲

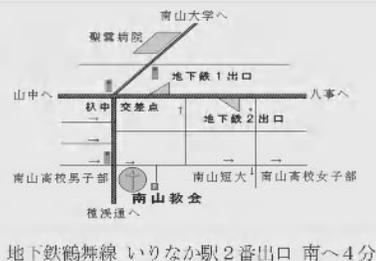
2010年3月28日(日)
(受難の主日) 16時(約1時間20分)
カトリック南山教会大聖堂

[入場] 無料
[演奏] 愛知芸大弦楽アンサンブル
福本 泰之 (愛知県立芸術大学教授) 他

「十字架上のキリストの最後の七つの言葉」はスペインの司教座聖堂の四旬節儀式の為に依頼されて1787年にJ.ハイドンにより作曲出版された弦楽四重奏曲です。

七つのソナタごとにキリストの最後の言葉が主題として掲載され、描写的な音楽の作曲を意図としたハイドンの才能を現わしていると言われています。

聖週間を前にして、素敵な音楽を聴きながら、一つ一つの言葉を黙想しつつ、共に祈りの時を過ごしていただけると幸いです。



主催：カトリック南山教会・名古屋市昭和区南山町1番地・(052)831-9131・nanzankyokai.net

南山句会

平成二十二年二月三日



何もない柚子の浮きたる風呂に入る

模様替え丑去り寅の初しごと

波荒し水仙香る越前路

うたた寝の覚めたる車窓雪の華

藁苞に白ふわふわと寒牡丹

芽起こしの役を担うや片時雨

梅一輪遺作の額にほころびぬ

にこやかに遺影のシスター冬薔薇

投げし独楽思はぬところで回りをり

微笑みて逝きし修女や梅の花

冬籠り一心不乱に筆を持つ

薄氷のかけらも見えず昨日今日

紀子

幸男

瑞子

佐知子

あき子

美恵子

光子

せつ子

のぼる

洋子

とく子

ひろし

毎月第一水曜日午後一時半

マリア館一階集会室

信者の消息

受洗 おめでとうございます

パウ 岩田欣明
マリア 岩田玉緒

転入 ようこそ

フランス・サビエル 近藤浩一(こういち)
幼きイエスのテレジア 近藤ちさと (延岡)
アウグスティノ 郡山昌清(しょうせい) (名瀬)

転出 いつまでもお元気で

ステファノ 山本有作 (神戸中央)

カトリック南山教会のホームページへようこそ!

南山教会のホームページで

- なんざん月報 (PDF形式)
- 毎週のお知らせ
- 主日の御言葉
- お祝いの写真や動画
などを見ることが出来ます。

どうぞご利用ください!

<http://nanzankyokai.net>

2010年3月・4月度行事予定表

	教会典礼歴	南山教会行事	各会活動	教区行事・その他
3月	28(日)受難の主日	13(土)~14(日) 南山教会四旬節 黙想会・共同回 心式 28(日)16時 音楽による黙想会	5(金)マリア会例会(懇談会) 7(日)運営委員会 10(水)14:30子ども部屋 14(日)教会学校卒業式 21(日)典礼委員会 27(土)要約筆記付きミサ	18(木)司祭協議会
4月	1(木)聖木曜日(主の晩餐) 2(金)聖金曜日(主の受難・大斎・小斎) 3(土)聖土曜日 4(日)復活の主日	3(土)19:00復活の徹夜祭・洗礼式 4(日)復活祭パーティ	9(金)マリア会例会(懇談会) 11(日)運営委員会 11(日)教会学校始業式 17(土)10:30子ども部屋 18(日)典礼委員会 24(土)要約筆記付きミサ	1(木)聖香油ミサ 11(日)信徒協委員総会 正義と平和「炊き出しバザー」 29(水)宣司評総会